

ふじのくに地球環境史ミュージアムの植物標本

早川宗志・横山謙二

ふじのくに地球環境史ミュージアム（以下、当館）は、2016（平成28）年3月26日に開館した静岡県立の自然系博物館です。静岡県では、当館の開設前から、消失や散逸が懸念される静岡県内の貴重な自然史標本の保存と次世代への継承を目的として、自然史資料の収集と登録作業を実施してきました。実際の作業は、NPO法人静岡県自然史博物館ネットワーク（以下、自然博ネット）が業務委託として実施してきています。本稿では、当館における自然史標本の収集状況について概観した渋川ほか（2022）の内容を基に、植物分野の収蔵標本を中心に紹介いたします。

当館が開館して7年を迎える現在、所蔵標本は概算で98.1万点に達しています。そのうち、植物（種子植物+シダ植物+蘚苔類+藻類）標本が21万点を占めており、個人蒐集家からの寄贈コレクションが主体となっています。維管束植物（種子植物+シダ植物）の標本は杉本順一氏、志村義雄氏、杉野孝雄氏、伊藤二郎氏、名倉智道氏、湯浅保雄氏などのコレクション、藻類（海藻）標本では澤田威氏のコレクションが所蔵されています。

標本の採集情報を整理中の湯浅保雄コレクションを除くと、当館所蔵の維管束植物の標本（約16万点）の比率は、杉野孝雄氏が個人名で採集した標本が33%、杉本順一氏が個人名で採集した標本が24%でした（図1）。

当館所蔵の維管束植物の採集年代に関して、戦前の標本は2,000点未満しか所蔵されていません。これは、戦前の杉本順一コレクション約30万点が静岡大空襲（1945年6月19日夜半から20日）で焼失してしまったためです。戦後から1985年までは採集標本の点数が比較的ありましたが、1980年代以降は杉野孝雄氏、湯浅保雄氏の2名による採集標本が主体となっています。特に、「その他」の採集者による採集標本の点数とその比率は1990年代以降、減少し続けています（図2）。さく葉標本を用いて植物相の時代変遷を考える場合、各年代に各地から採集されていることが望ましくなり

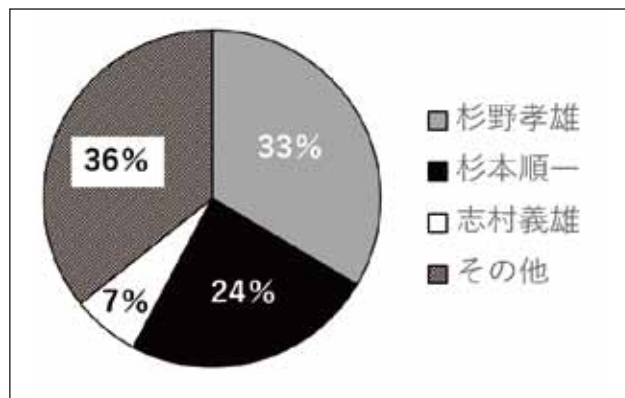


図1. ふじのくに地球環境史ミュージアム植物収蔵庫の維管束植物における採集者別の採集標本の比率（湯浅保雄コレクションを除く）。

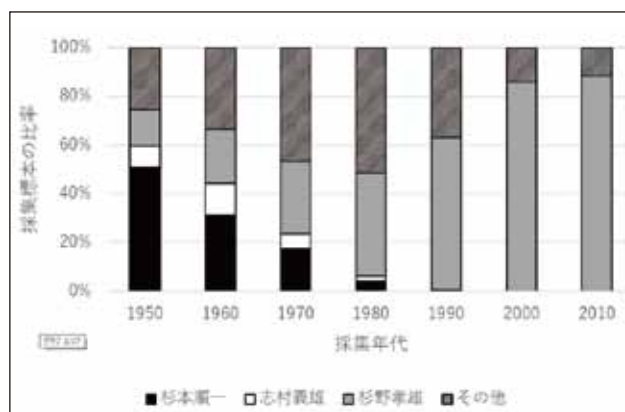


図2. ふじのくに地球環境史ミュージアム植物収蔵庫の維管束植物における採集者別の採集年代ごとの採集標本の比率（湯浅保雄コレクションを除く）

ます。さく葉標本の採集者が少ない現状は今後の収集保管計画における大きな懸念材料となっています。自然博ネット会員の皆様も、さく葉標本を作製された経験がある方、やってみてみたい方はぜひ採集を心がけていただけると幸いです。

引用文献

渋川浩一・早川宗志・横山謙二・西岡佑一郎・岸本年郎（2022）ふじのくに地球環境史ミュージアムにおける自然史標本収集保管活動の現状と課題. 東海自然誌(15):59-72.